

2月22日(水)に第374回三木市議会定例会を開催し、仲田一彦市長が令和5年度施政方針を発表しました。その中から、重要な取組などについてお伝えします。

ウィズコロナ社会とデジタル化の進展

新型コロナウイルス感染症への対応が大きく変わろうとしており、感染症法上の取り扱いが5月8日から季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられるなど、ウィズコロナ社会の環境が整いつつあります。

コロナ禍で進展したデジタル化について、市では「書かせない・待たせない」窓口となるよう、デジタル化の取組を推進し、市民サービスの向上を図ります。

また、本市は民間事業者との協働により、ICTやデータを活用し、地域課題の解決に意欲的に取り組む自治体として、県からスマートシティモデル地区の認定を受けています。民間ならではの技術を活かしながら、最適な公共サービスの提供を実現し、まちの魅力や

住民満足度の向上を図ります。

2025年大阪・関西万博に向けて

大阪・関西万博は、市外をはじめ、海外に三木市をPRする大きなチャンスととらえています。質・量ともに日本一を誇る酒米山田錦や三木金物、ゴルフなど地域資源に触れるプログラムの検討を進め、三木市を世界に向けて広く知っていただく絶好の機会として活用し、地域経済の活性化につなげます。

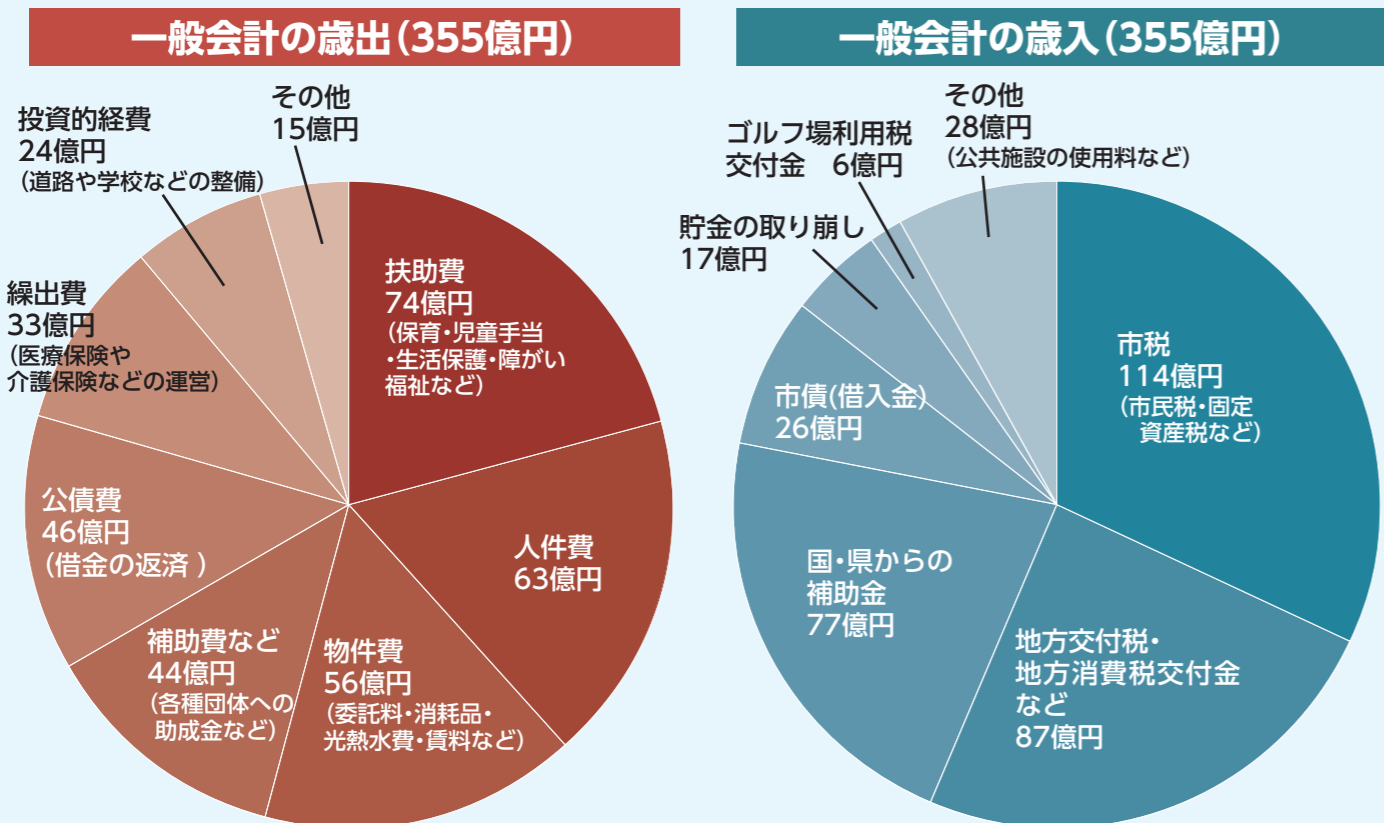
実を結ぶまちづくりの取組

20年、30年先の未来を見据え、将来にわたりまちの活力を保ち続けるため、これまで着実に進めてきた取組が芽を出し、実を結ぼうとしています。着実な歩みを未来へつなぎ、「誇りを持って暮らせるまち三木」の実現に向け、初心を忘れず、一日一日を新たな気持ちで取り組みます。

● 4〜7ページで令和5年度の主な事業を紹介いたします。



予算の内訳(一般会計)



令和5年度は、三木市の魅力をさらに磨き上げ、大きく飛躍するための序章として、第一に教育のまちの取組。加えて、本市が持つ優れた地域資源(三木ブランド)の魅力向上のための取組、防災をはじめとする安全安心な環境づくりの取組、まちの活力の向上のための取組を進めていきます。

令和5年度予算の規模

令和5年度当初予算は、一般会計が355億2千万円、特別会計が180億9千万円です。一般会計は、スマートインターチェンジの整備のほか消防署吉川分署など公共施設の改修などの費用で、前年度に比べて11億4千万円(3.3%)増加し、過去最大です。

区分	令和5年度当初予算(A)	令和4年度当初予算(B)	対前年度比	
			増減額(C)(A-B)	増減率(C/B)
一般会計	355億2,000万円	343億8,000万円	11億4,000万円	3.3%
特別会計				
国民健康保険	86億6,700万円	90億2,000万円	△3億5,300万円	△3.9%
介護保険	75億3,200万円	73億300万円	2億2,900万円	3.1%
後期高齢者医療事業	15億9,100万円	15億2,600万円	6,500万円	4.3%
学校給食事業	3億円	2億7,800万円	2,200万円	7.9%

問 (市)企画政策課
(市)財政課

飛躍への序章 5つの方針と主な事業

本年は「飛躍への序章」をテーマに三木市の魅力をさらに磨き上げ、大きく飛躍するための序章として、5つの取組を進めます。

- 1 教育のまちの推進
- 2 地域資源(三木ブランド)の魅力向上
- 3 安全安心な環境づくり
- 4 まちの活力の向上
- 5 持続可能な行政運営

1 教育のまちの推進

日経BP「日経パソコン 教育とICT」(令和5年1月16日発行)掲載記事「公立学校情報化ランキング 2021年度版」において小・中学校共に県内2位を獲得しました。我が子の教育は三木で受けさせたいと思っただけのよう、子どもたちの未来を生き抜く力の育成をめざし、「教育のまち三木」の取組を推進します。

未来を創る学力育成 「三木モデル」の取組

これからの時代に求められる「主体性、協働性、創造力」を育成するため、タブレット端末を活用した個別最適な学びと他者との学び合いによる協働的な学びを推進する授業改善の取組や職員研修を充実 【125万円】



小中一貫教育の推進

「9年間の学びと育ちを見守り支える」

予測困難な未来を生き抜く力を身に付けさせるために、義務教育9年間で「めざす15歳の子どもの姿」を小・中学校の教職員間で共有し、子どもの発達段階に応じた指導を行う小中一貫教育を推進 【185万円】

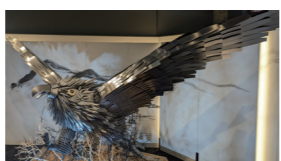


2 地域資源(三木ブランド)の魅力向上

全国的に評価が高い地域資源「三木金物」、「酒米山田錦」、「ゴルフ」を世界に発信し、更なる三木ブランドの魅力向上により、地域の活性化を図ります。

三木金物

三木金物商工協同組合連合会が実施する海外展示会への出張を支援 【360万円】



大阪・関西万博における金物驚の展示に向けた取組を推進

ゴルフ

ゴルフを核にしたまちづくりの推進 【7,354万円】

・全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会、スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会を開催

・ゴルフに親しみを持ち、ゴルフを身近に感じられる環境づくりの推進(ゴルフ場体験、デジタルスタンプラリー、春高・春中ゴルフ大会サブタイトル募集、ゴルフ教室、スナッグゴルフ大会など)



酒米山田錦

酒米山田錦のPR(金物まつりに合わせた山田錦の振興イベント)の開催など 【400万円】

・「山田錦の郷活性化構想」に基づく山田錦の郷の整備(山田錦の館の改修設計、駐車場の整備など) 【6,900万円】

地域の子どもは 地域が育てる教育

・子ども食堂の運営を支援 【90万円】
・生活困窮世帯の子どもに対する学習・生活支援を三木地区に続き自由が丘地区でも実施 【370万円】



地域とともにある 学校づくり

学校内に校長(教職員)と地域、保護者などの代表者からなる「学校運営協議会」を設置し、子ども教育について考え、実践していくコミュニティ・スクールをまずは緑が丘中学校と吉川小学校・吉川中学校(小中合同型)に導入 【69万円】



3 安全安心な環境づくり

防災をはじめ安全安心な環境づくりを進め、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します。

防災のまちの推進

- ・国による実大免震試験機の整備を契機とし、広域防災センター、E-ディフェンスとともに、県が進める「防災ツーリズム」との連携など防災を柱とする取組を推進
- ・消防署吉川分署の移転、建て替えに伴う移転先の整備や庁舎の設計 【9,300万円】
- ・消防団員の処遇改善 【5,714万円】
- ・使用されていないため池の廃止、ため池の定期点検や防災工事に向けた実施計画の策定 【1億2,721万円】
- ・災害時の避難や緊急車両の通行などに課題がある密集市街地の防災まちづくり計画や道路拡幅計画の作成 【1,880万円】



出産・子育てへの支援

- ・産後ケアの対象サービスに乳房マッサージを追加 【473万円】
- ・低所得の妊婦の初回産科受診料の支援など 【57万円】
- ・妊娠時から出産、子育てまで寄り添う伴走型の相談支援とともに計10万円の経済的支援を実施 【4,684万円】



4 まちの活力の向上

人が集い、誰もがいつまでも元気で暮らせるまちづくりを進め、まちの活力を向上させます。

地域活性化や交通渋滞の緩和

- ・令和6年度の(仮称)三木スマートインターチェンジ供用開始をめぐり、整備を推進 【3億7,700万円】



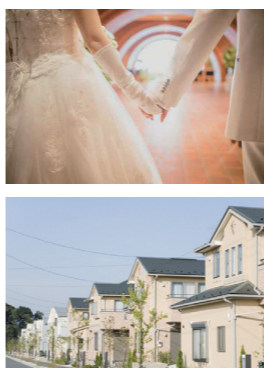
新たな雇用の創出

- ・ひょうご情報公園都市第2期工区について、県・市共同事業として令和6年度の工事着手、令和8年度の一部分譲開始に向けた取組を実施 【7,000万円】



結婚新生活を応援

- ・住居の取得費用または、住宅賃貸費用、引っ越し費用に加え、リフォーム費用を最大100万円補助 【4,745万円】



高齢者福祉の推進

- ・高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定(移動やごみ出しなどの支援が必要な方向け、地域での支え合いの体制づくりについても検討) 【406万円】



まちの活力を保ち続ける仕組みづくり

- ・全国的な戸建住宅団地が抱える高齢化や空き家などのさまざまな課題を解決するため、先進技術などを活用し、将来にわたりまちの活力を保ち続ける仕組みづくりをめざす「青山7丁目団地再耕プロジェクト」を推進
- ・大和ハウス工業(株)から市に贈与される土地1.5ヘクタールの造成工事・基本構想の策定
- ・福祉系エリアにおける特別養護老人ホームなどの民間整備



5 持続可能な行政運営

20年、30年先の未来を見据え、将来にわたり、まちの活力を保ち続けるため、持続可能な財政基盤を確立します。

市の財政健全化の取組

- ・自主財源の確保とともに事業の見直しを行い、持続可能な財政基盤を確立



公共施設再配置

- ・将来の人口規模や市民のニーズに合った公共施設の適正規模・適正配置の推進
- ・中央公民館等複合施設の整備に向けた基本計画の策定

4月から市役所の組織が一部変わりました

- ・市民協働課の市民交流係と生涯活躍のまち推進係を統合し、市民交流係を設置(市役所2階)
- ・ワクチン接種対策室を廃止し、健康増進課に業務移管(総合保健福祉センター)
- ・農地整備課を設置(市役所2階)
- ・学校再編室を小中一貫教育推進室に変更(市役所5階)

